

## アジア・市民交流助成(The Japan Foundation Asia Center)による

### インドネシアでの防災教育活動

国境なき技師団は、傘下の学生組織早稲田大学防災教育支援会(Waseda Student Organization for Education of Natural Disaster, WASEND)および京都大学防災教育の会(Kyoto University Disaster Prevention School, KiDS)の協力を得て、インドネシアスマトラ西海岸バンダ・アチェ、ムラボーおよびジャカルタ、バンドンにおいて、小・中学生を対象とした防災教育と地域市民を対象とした地域防災講座を開催した。

国境なき技師団は、2004年のインド洋津波災害以降、毎年このような防災教育活動と地域防災活動をインドネシア各地で継続的に行って来ている。平成27年度はThe Japan Foundation Asia Centerのアジア・市民交流助成制度により一部資金の援助を受けて、本事業が実施された。防災教育はインド洋津波および東日本大震災津波における小・中学校の児童・生徒の体験に基づいた津波避難の事例や“稲村の火”などのわが国の古くからある逸話を教材として行われた。

これらの国境なき技師団と学生団体による活動は、インドネシア防災庁(BNPB)やスマトラの自治体、小・中学校の教職員および地域住民より高い評価を得ており、継続が要望されている。昨年仙台市で開催された防災世界会議の共同宣言にも自然災害軽減のための国際協力の重要性が唱われており、国境なき技師団の活動は、自然災害が多発しているアジア地域において時宜を得た活動として評価されている。

活動の多くの部分は、わが国とインドネシアの学生との連携により行われており、目視野を養成する観点からも次世代を担う若者の国際化にも多大な教育効果をもたらすものと考えられる。

本年度の防災教育活動をベースとして、今後一般市民と地域を対象としたコミュニティ防災講座をインドネシア各地で開催すべく準備が進められている。気候変動に起因すると考えられる自然災害が増大する昨今、防災先進国として、世界の自然災害、とりわけアジアの自然災害軽減に貢献するのは、わが国の重要な使命と考えられる。計画中のコミュニティ防災講座は国境なき技師団が中心となって推進するが、スマトラ西海岸地域および大船渡市など東日本大震災被災地域も参画する予定である。